



# 数値で見る滋賀県立大学 2017

## — 県大のポジション —

この資料は、滋賀県立大学の教育研究活動等に関する数値のうち、他大学等と比較可能なものを中心に大きく6つの視点をピックアップし、本学の概況・ポジションができるだけ明らかになるように作成しました。

※ 他との比較を念頭において作成しているため、大学の活動すべてを網羅的にピックアップしているものではありません。

1. 大学の構成員 —教職員数・学生数—
2. 学生の受入
3. 教育の成果
4. 研究 —科学研究費助成事業—
5. 地域連携
6. 財政の状況

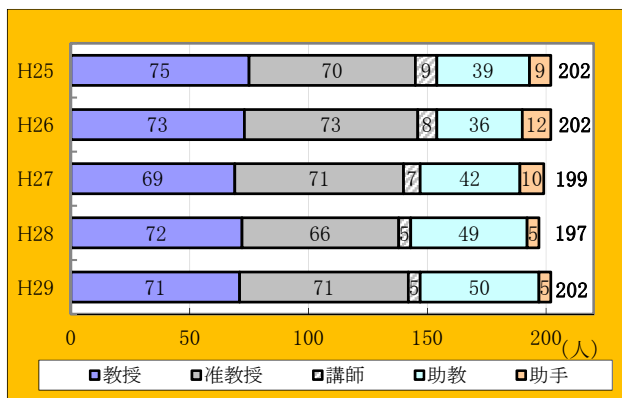


# 1. 大学の構成員 — 教職員数・学生数 —

○ 教員数は202人、事務局職員数は58人、学生数は2,832人

○ 教員の年齢構成は、40歳～44歳の層が最も多い

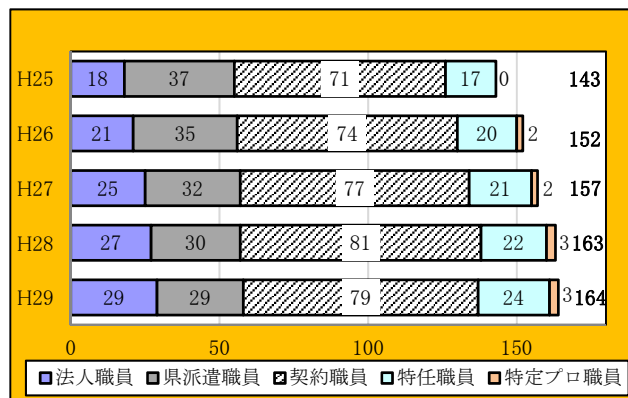
## 1-1 教員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

教員数は、概ね200人前後である。数の変動は、学校基本調査が毎年5月1日現在の調査であり、退職者の補充の遅れなどによるもの。

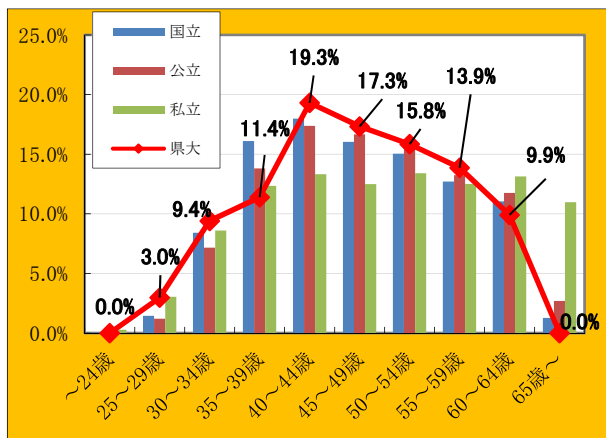
## 1-2 職員数



※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）ほか

事務局職員数は、契約職員等を除き58人。法人化以後、毎年度法人職員を採用し、県からの派遣職員の数が減ってきている。このほか、平成20年度以降に特任職員（特任教授等）、特定職員の制度化が図られている。

## 1-3 教員の年齢構成



※ 国公立大学の教員年齢：平成28年度学校教員統計調査より（3年毎）  
 ※ 本学の教員年齢：平成29年4月現在 パーセントの数値は本学のもの

40歳～44歳の層が年齢区分別で最も多く、次いで45歳～49歳の層が多い。また、国公立大学の平均に比べ、25歳～29歳の層の構成率が高く、35歳～39歳の層の構成率が低くなっている。

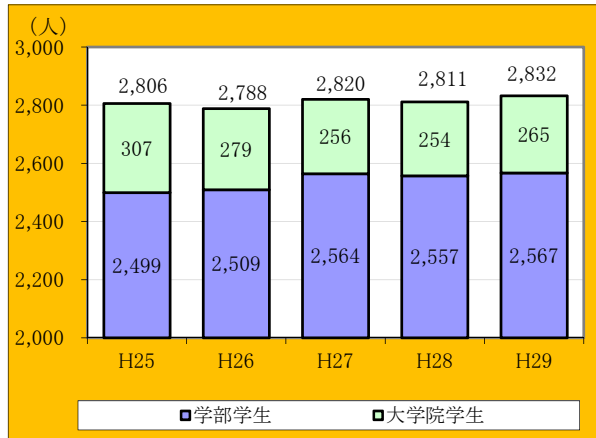
## 1-5 教員の構成（女性・外国人）

	国立	公立	私立	県大
女性比率	14.9%	28.0%	26.4%	28.7%
外国人比率	3.3%	3.8%	4.1%	3.5%

※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）国公立データは、Web「文部科学統計要覧」より

女性比率は国公立大学の平均以上である。外国人比率は国立大学の平均以上であるが、公立大学の平均を下回っている。

## 1-4 学生



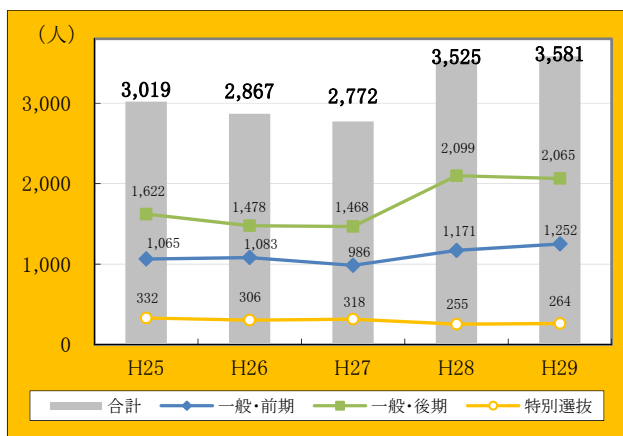
※ 出所：学校基本調査（毎年5月1日現在）

平成29年度は学部学生が11人、大学院学生が10名増加したため、学生数が21人増加となった。

## 2. 学生の受入 1/2

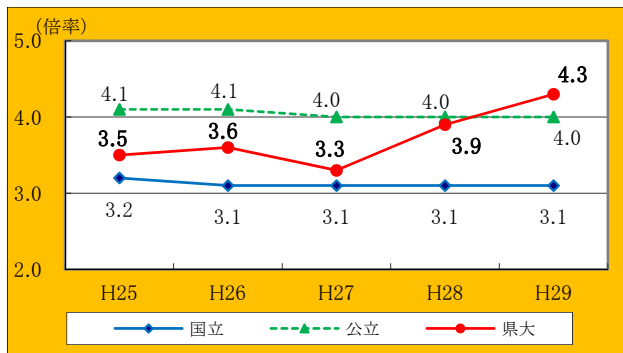
- 入学志願者総数は、3,581人
- 一般選抜（前期日程）の志願倍率は、4.3倍

### 2-1 志願者の推移



平成 29 年度は、後期日程の志願者は減少したが、前期日程の志願者と特別選抜の志願者が増加したため、志願者総数が増加した。

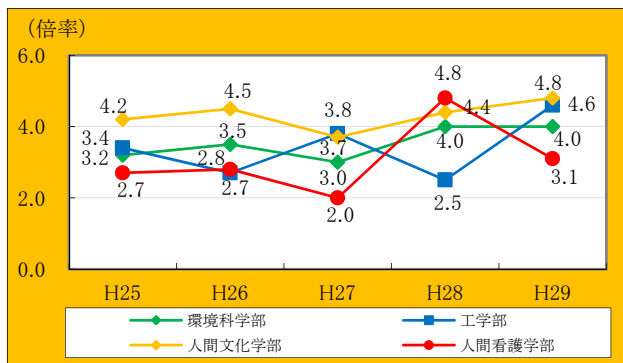
### 2-2 前期日程志願倍率の比較



※ 出所：文部科学省報道発表資料

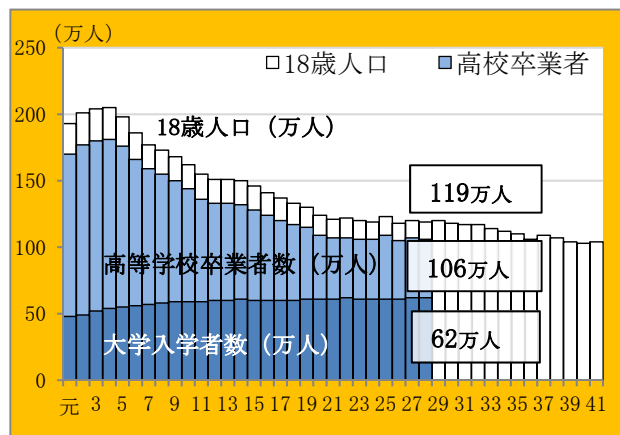
一般選抜（前期日程）の志願倍率は、平成 29 年度は国立大学だけでなく、公立大学の平均志願倍率も上回った。

### 2-4 前期日程志願倍率（学部別）



人間文化学部、工学部の志願倍率が上昇した。環境科学部は横ばいで、人間看護学部が下降した。

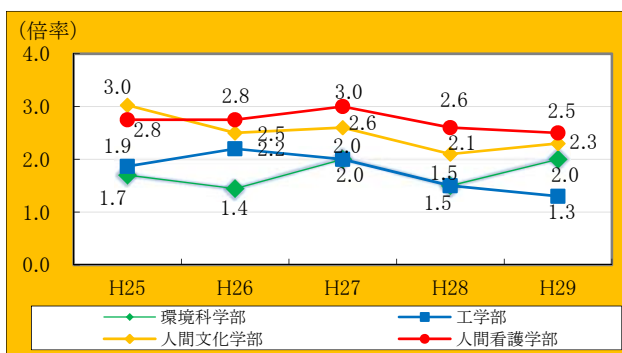
### <参考> 18歳人口の推移



出所：文部科学省

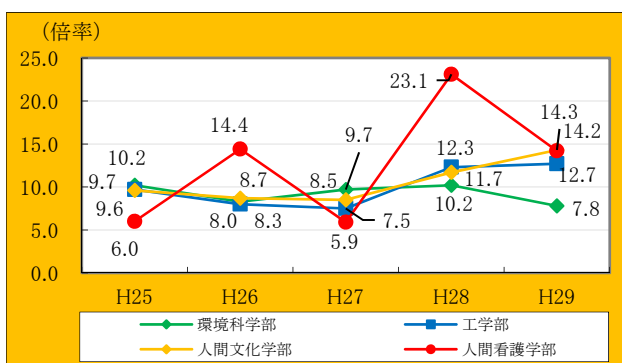
平成 29 年 18 歳人口 119 万人、高校卒業生数 106 万人、大学入学者数 62 万人、大学進学率 58.5%、大学・短大進学率 64.2%

### 2-3 推薦入試志願倍率（学部別）



平成 27 年度以降、人間看護学部と工学部の志願倍率が下降している。平成 28 年度は環境科学部と人間文化学部の志願率が上昇した。

### 2-5 後期日程志願倍率（学部別）

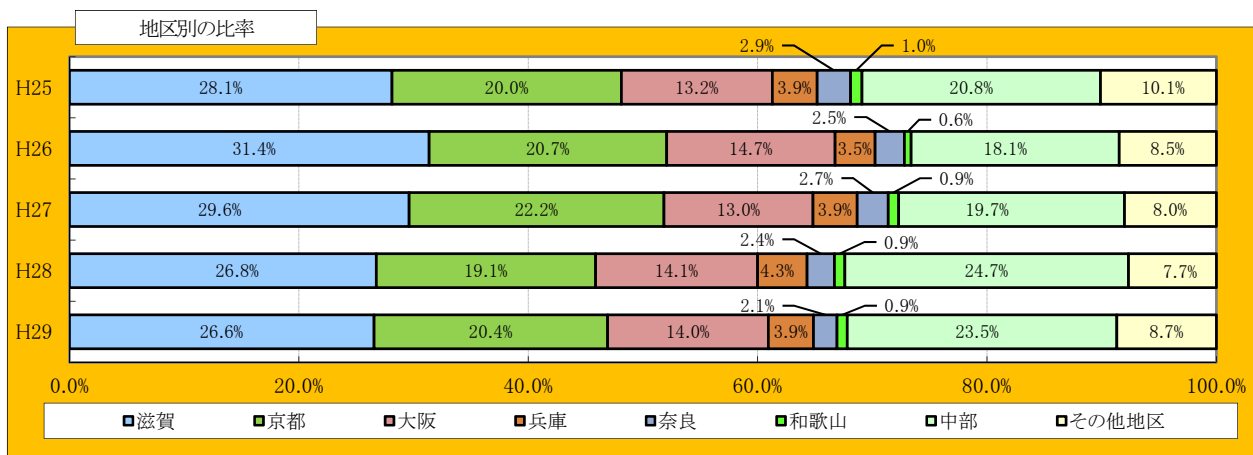


工学部と人間文化学部の志願倍率が上昇した。環境科学部と人間看護学部の志願率は下降した。

## 2. 学生の受入 2/2

- 志願者のうち近畿地区は67.9%、中部地区は23.5%
- 新入学生のうち県内出身者は、33.5%（前年度2.4ポイント減）

2-6 地区別の入学志願者比率の推移 (比率=当該地区の志願者/総志願者)

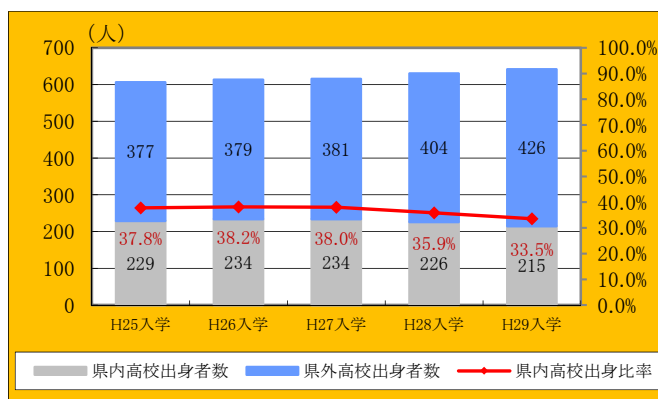


2-7 新入生のうち県内高校出身者数と比率の推移

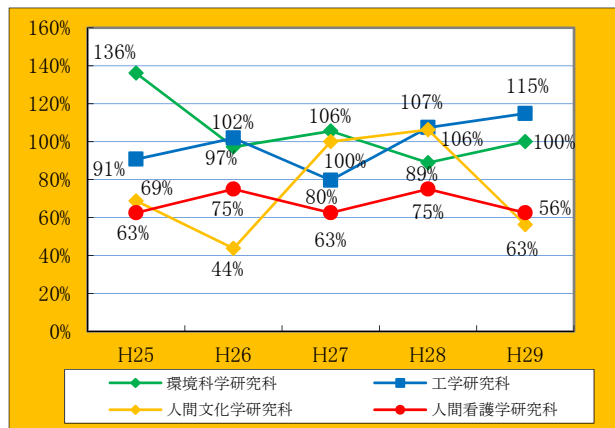
近畿地区(2府4県)の志願者比率は、総志願者の約68%、また中部地区(山梨、長野、岐阜、静岡、愛知、三重)からの志願者比率は、約24%と前年より少し下降した。両地区で総志願者の約91%を占めている。その他地区のうち3.3%は北陸地区で約1%上昇した。

近畿地区内の各府県の志願者比率は、滋賀県が約27%、京都府が約20%程度となっている。

また、新入生のうち滋賀県内高校出身者の比率は平成29年度入学者が33.5%で前年度より減少している。

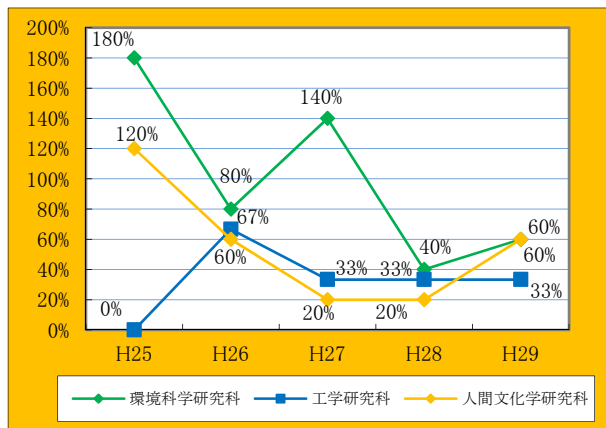


2-8 大学院入学定員充足率(修士・博士前期課程)



平成29年度は、工学研究科、環境科学研究科の定員充足率が上昇した。

2-9 大学院入学定員充足率(博士後期課程)

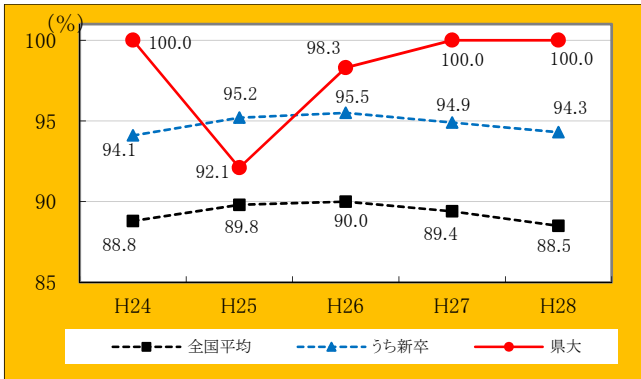


3研究科とも、母数が小さいため、1名の増減でも充足率が大きく変動し、コンスタントに定員を確保することは難しい。

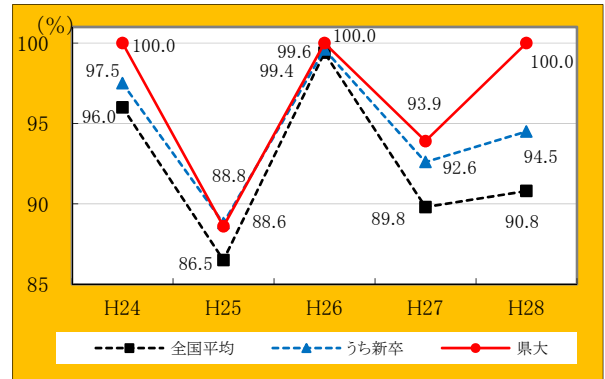
# 3. 教育の成果 1/3

- 国家試験合格率は、看護師：100%、保健師：100%、助産師：100%、管理栄養士：100%
- TOEICの平均スコアは、2年間で2.9%上昇

## 3-1 看護師試験



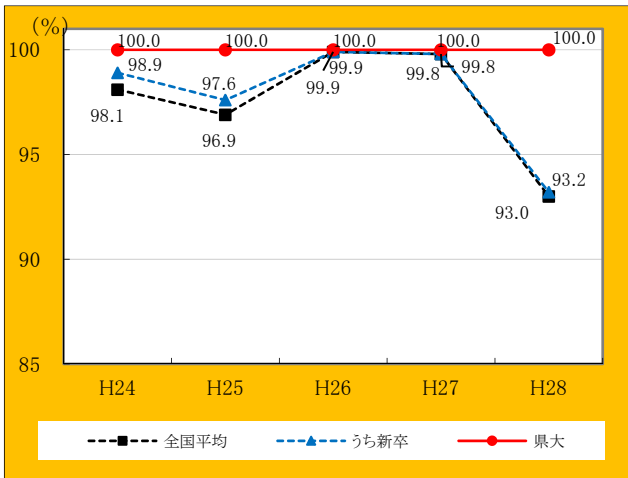
## 3-2 保健師試験



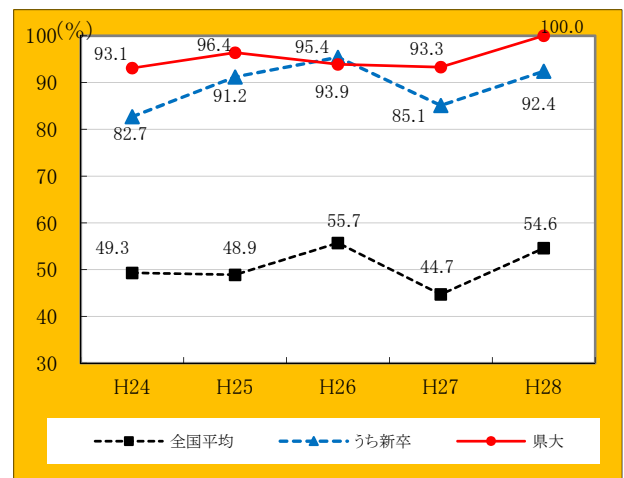
平成28年度は、看護師試験・保健師試験・助産師試験・管理栄養士試験のすべてで、全員合格した。

看護師 (65人/65人) 保健師 (29人/29人) 助産師 (8人/8人) 管理栄養士試験 (30人/30人) (合格者数/本学受験者数)

## 3-3 助産師試験

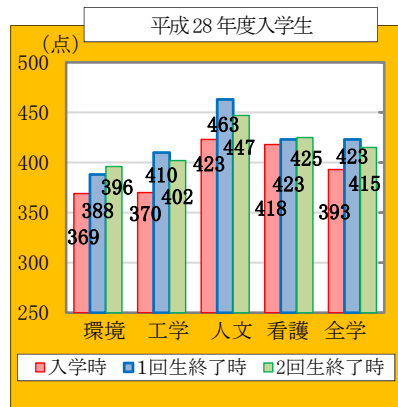
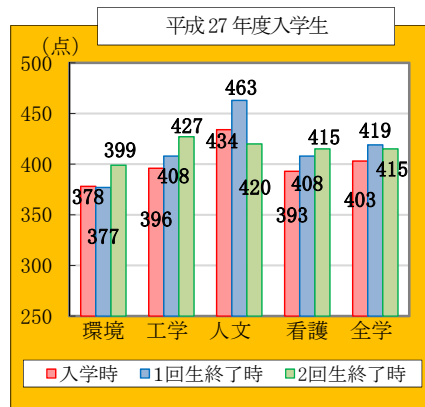


## 3-4 管理栄養士試験



※ 出所不詳は、いずれも厚生労働省報道発表資料など

## 3-5 TOEIC 試験結果



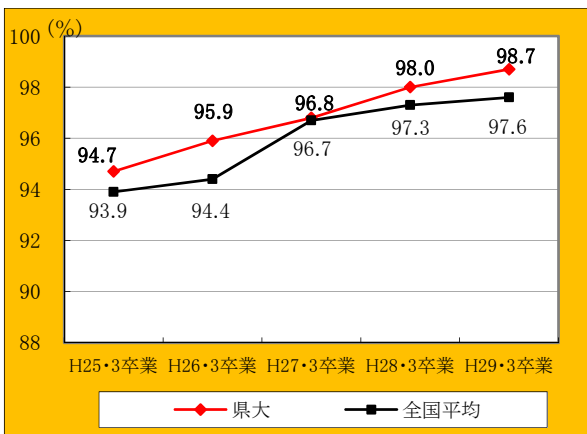
入学年度	回数	平均点	最高点
H27	1回目	403	825
	2回目	419	820
	3回目	415	825
H28	1回目	393	745
	2回目	423	795
	3回目	415	830

入学時、1年次終了時、2年次終了時の3回、TOEIC試験の受験を義務付けており、入学時と比べ2年間で平均スコアが平成27年度入学生は2.9%、28年度入学生は5.6%上昇した。

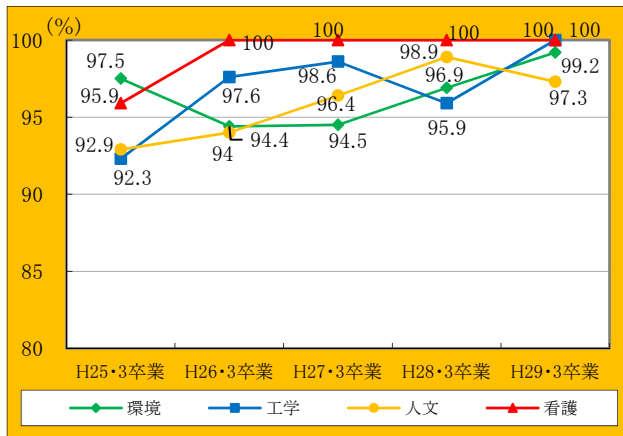
# 3. 教育の成果 2/3

○ 就職内定率（学部）は、全国平均（97.6%）を上回り、98.7%

3-6 就職内定率（全国比較）



3-7 就職内定率（学部別）



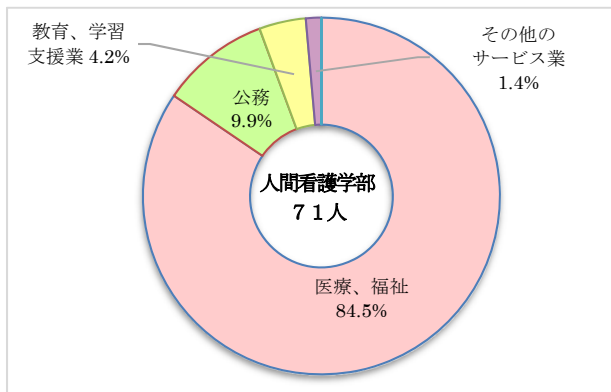
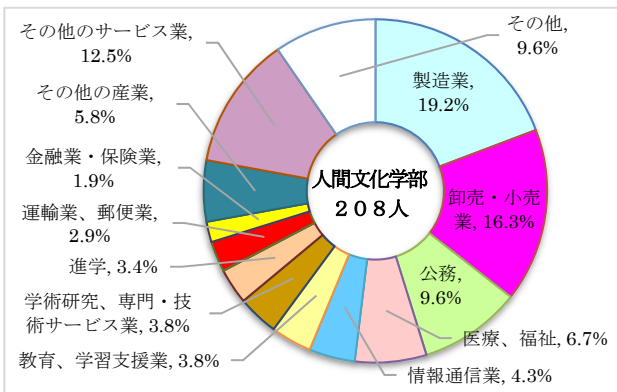
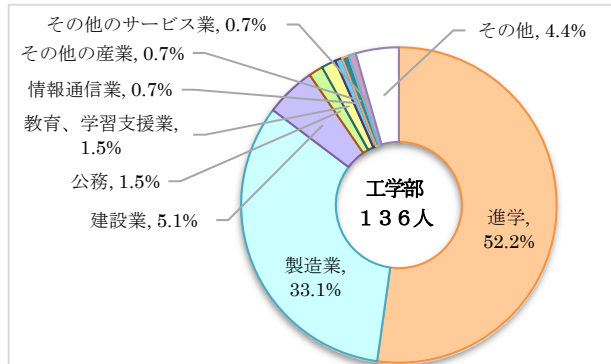
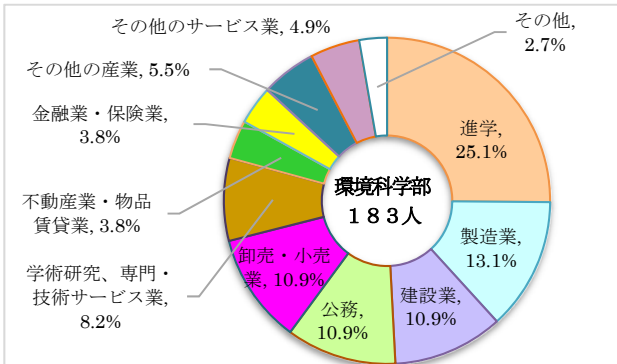
※ 出所：文部科学省報道発表資料

平成29年3月卒率は98.7%で、平成28年3月卒率比で0.7ポイント上昇し、全国平均97.6%を上回る結果となった。学部別の特徴は次のとおりである。

- ・環境科学部 99.2%（前年比2.3ポイント上昇） 環境生態学科と環境政策・計画学科と生物資源学科は100%。
- ・工学部 100%（前年比4.1ポイント上昇） 工学部はすべての学科で100%。
- ・人間文化学部 97.3%（前年比1.6ポイント下降） 生活栄養学科、国際コミュニケーション学科は100%。
- ・人間看護学部 100%（前年と同じ） 4年連続で100%。

（ 就職内定率=就職内定者/就職希望者 ）

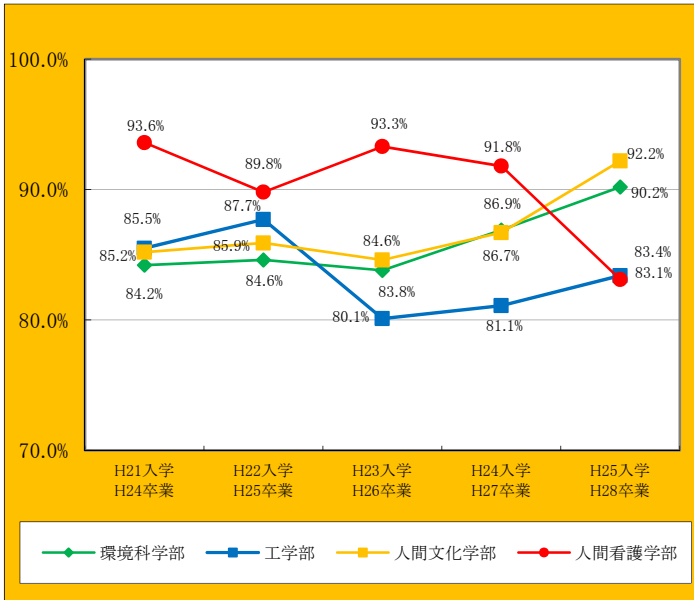
3-8 平成28年度卒業生進路状況（産業別就職状況）



# 3. 教育の成果 3/3

## ○ 休学率は3.0%で前年度より上昇

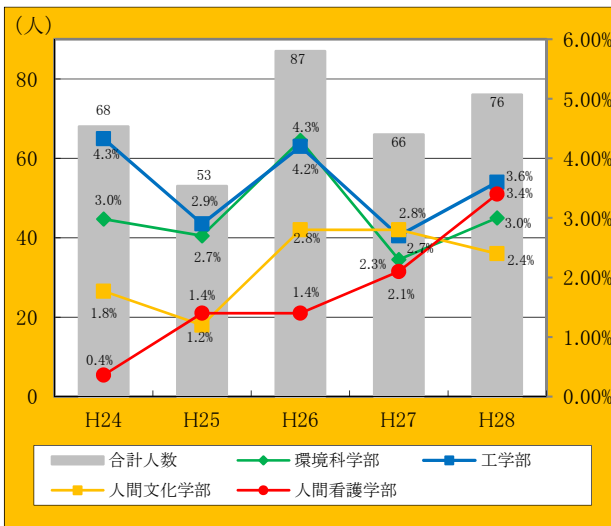
### 3-9 修業年限における卒業率（学部別）



修業年限（4年）での卒業率を、平成28年度卒業対象者で学部別にみると、環境科学部、工学部、人間文化学部は上昇したが、人間看護学部は下降した。

※（卒業率＝修業年限での卒業者数 / （入学者数+3年次編入学者数））

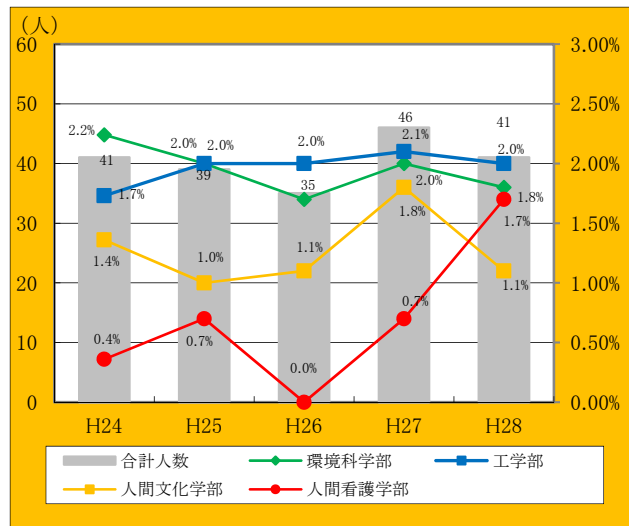
### 3-10 休学率（学部別）



※（休学率＝当該年度に承認された休学者数 / 年度当初の学生数）

平成28年度の休学率は、年間76人、全学生数の3.0%で前年度に比べ0.4ポイント上昇している。人間文化学部で3%を下回った。

### 3-11 退学率（学部別）



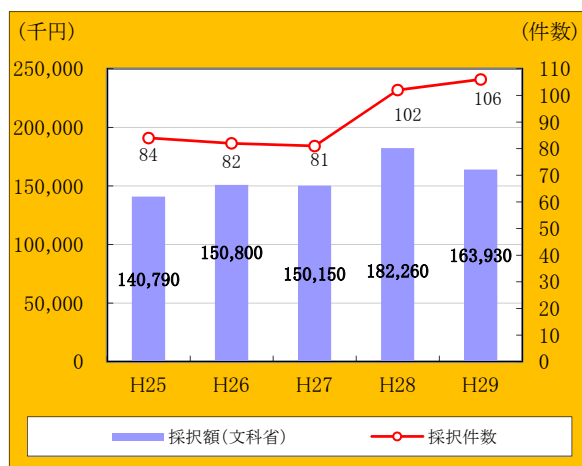
※（退学率＝当該年度に承認された退学者・除籍者数 / 年度当初の学生数）

平成28年度の退学率は、年間41人、全学生数の1.6%で前年度より減少した。人間看護学部は約1%上昇した。

## 4. 研究 - 科学研究費助成事業 -

- 新規採択率は32.8%、採択件数は106件、採択金額は約1億6千万円
- 研究者1人あたりの申請数は前年並み、採択数は0.52件と増加

### 4-1 採択件数と採択金額



※ 各年度の確定値

平成29年度の採択件数は前年度に比べ4件増加したが、獲得金額では18,330千円減少した。

### 4-2 平成29年度の採択状況(新規+継続) 公立大学 採択件数上位20機関の状況

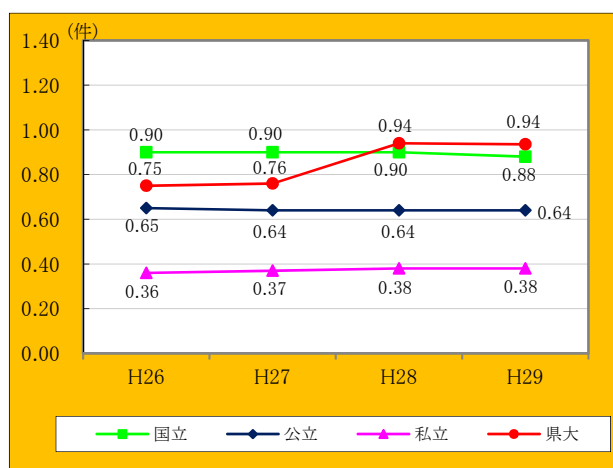
順位	大学名	新規+継続		備考		
		採択件数(件)	配分額(単位:千円)	新規応募件数	新規採択件数	新規採択率
1	大阪市立大学 *	453	814,300	650	168	25.8%
2	首都大学東京	424	858,500	486	124	25.5%
3	名古屋市立大学 *	409	604,300	482	150	31.1%
4	大阪府立大学	383	793,800	507	113	22.3%
5	横浜市立大学 *	364	656,600	499	121	24.2%
6	京都府立医科大学 *	281	434,600	426	98	23.0%
7	兵庫県立大学	248	435,500	362	70	19.3%
8	福島県立医科大学 *	218	329,700	359	87	24.2%
9	札幌医科大学 *	214	308,400	293	80	27.3%
10	和歌山県立医科大学 *	208	288,800	323	82	25.4%
11	奈良県立医科大学 *	207	283,800	296	76	25.7%
12	静岡県立大学 *	153	252,600	167	59	35.3%
13	<b>滋賀県立大学</b>	<b>106</b>	<b>126,100</b>	<b>119</b>	<b>39</b>	<b>32.8%</b>
14	愛知県立大学	96	108,200	99	30	30.3%
15	秋田県立大学	92	118,500	146	27	18.5%
16	京都府立大学	86	165,900	112	28	25.0%
16	県立広島大学	86	85,500	174	31	17.8%
18	高知県立大学	77	85,100	65	28	43.1%
19	高知工科大学	76	152,100	88	35	39.8%
20	北九州市立大学	75	96,400	104	19	18.3%

※ 出所: 文部科学省報道発表資料

※ 研究成果公開促進費を除く。

※ \*は医学、歯学、薬学部のある大学

### 4-3 研究者1人あたりの申請数(新規+継続)

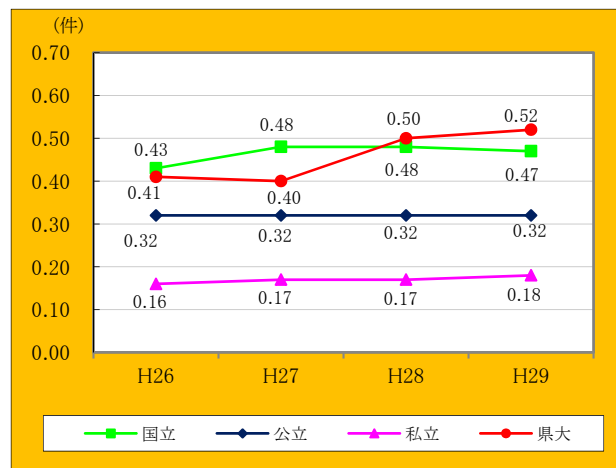


※ 出所: 文部科学省報道発表資料

※ 厚労科研費を除く。

教員1人あたりの申請数は、0.94件で昨年度と同じだった。なお、文部科学省の公表数値は、平成26年度から分母が教員数から研究者登録数に変更されたため、単純比較はできないことに留意する必要がある。

### 4-4 研究者1人あたりの採択数(新規+継続)



※ 出所: 文部科学省報道発表資料(科研費配分速報値)

※ 厚労科研費を除く。

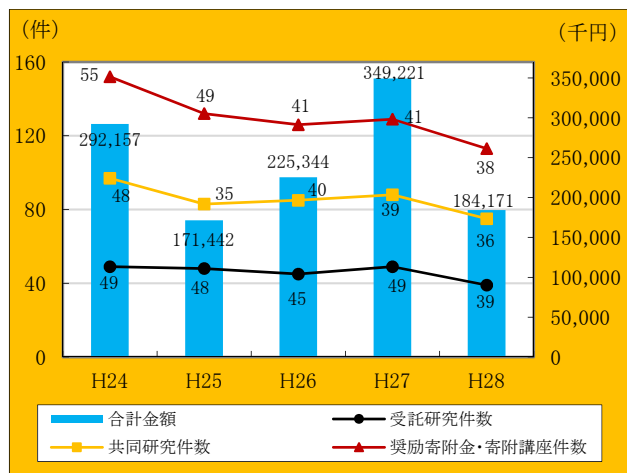
教員1人あたりの採択数は、0.52件で昨年度より増加した。なお、文部科学省の公表数値は、平成26年度から分母が教員数から研究者登録数に変更されたため、単純比較はできないことに留意する必要がある。



## 5. 地域連携 1/2

### ○ 受託・共同研究、奨励寄附金等の件数は113件、金額は約1億8千万円

#### 5-1 受託研究、共同研究、奨励寄附金等の合計（件数・金額）

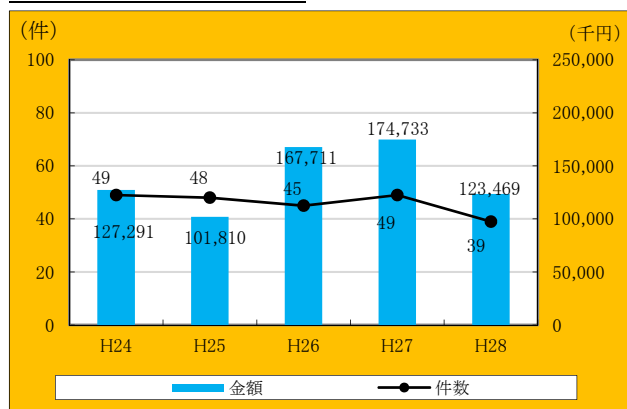


平成28年度の受託研究・共同研究および奨励寄附金は、件数と金額が減少した。

（平成27年度の総額は、日本電気硝子株式会社の連携事業や寄附講座の延長等により、前年度より約1億2千万円増加している。）

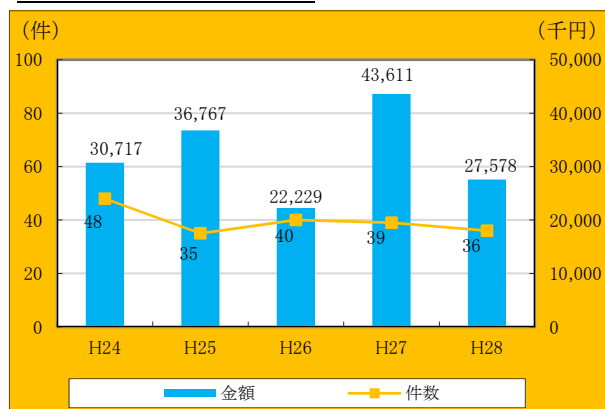
なお、外部資金の獲得状況については、P.10に記載している。

#### 5-2 本学の受託研究



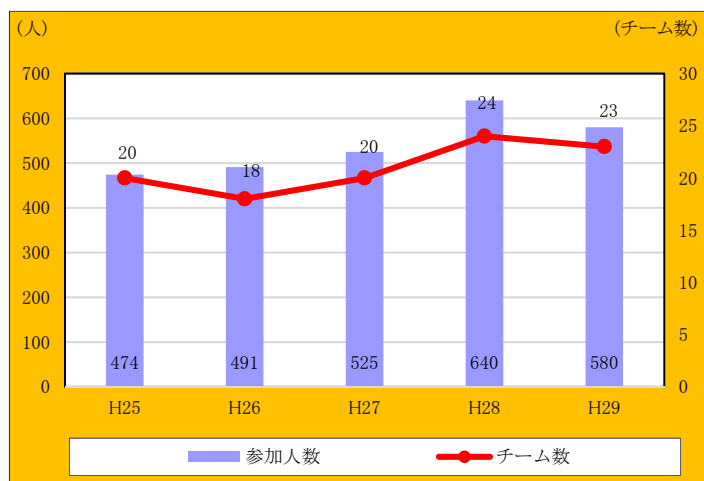
平成28年度の受託研究については、前年度と比べ件数、金額ともに減少した。

#### 5-3 本学の共同研究



平成28年度の共同研究については、前年度に比べ件数、金額ともに減少した。

#### 5-4 学生の地域課外活動「近江楽座」への参加数

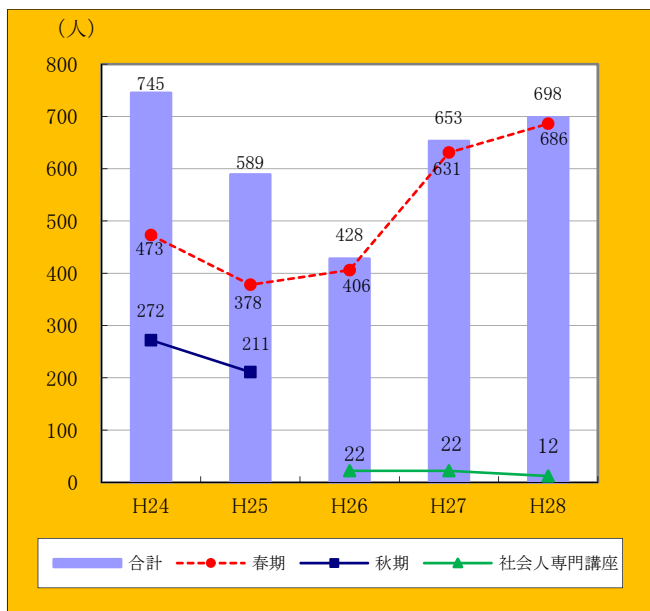


学生の地域課外活動である「近江楽座」には、20チーム以上、約600人前後の学生が参加している。

## 5. 地域連携 2/2

○ 公開講座の受講者数は698名で前年度より6.9%の増、満足度も向上

### 5-5 公開講座の参加状況



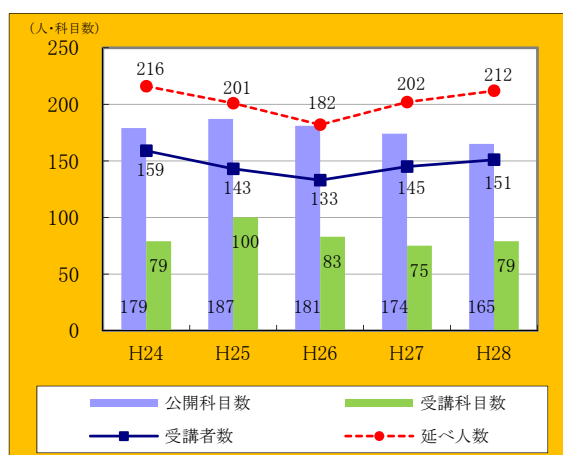
公開講座は、開学翌年度の平成8年度から開催しており、平成19年度からは有料化（受講者から受講料を徴収）していたが、平成26年度に再び無料化した。受講者数は講座テーマ等により変動している。

秋期公開講座は平成25年度に事業を終了し、平成26年度以降は社会人専門講座を開講した。

### 5-6 公開講座の参加者の満足度

H24	H25	H26	H27	H28
82.3%	82.5%	87.8%	84.6%	85.3%

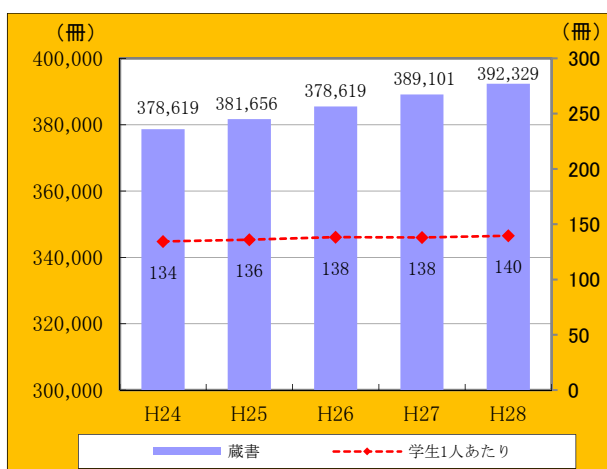
### 5-7 公開講義の開催状況



公開講義は、地域の人々に対して、学習の機会を提供することを目的に本学の講義を公開している。

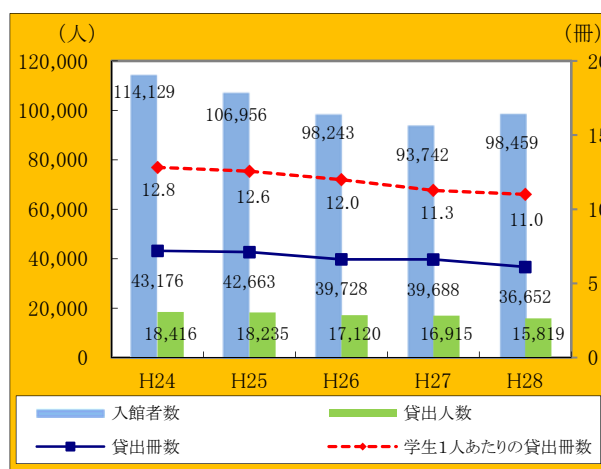
公開科目数に大きな変動はないが、平成28年度は受講者数および延べ人数は増加した。

### 5-8 図書蔵書数



蔵書数は増加しているが、学生1人あたりの蔵書数は横ばいである。

### 5-9 図書館入館者数および貸出状況

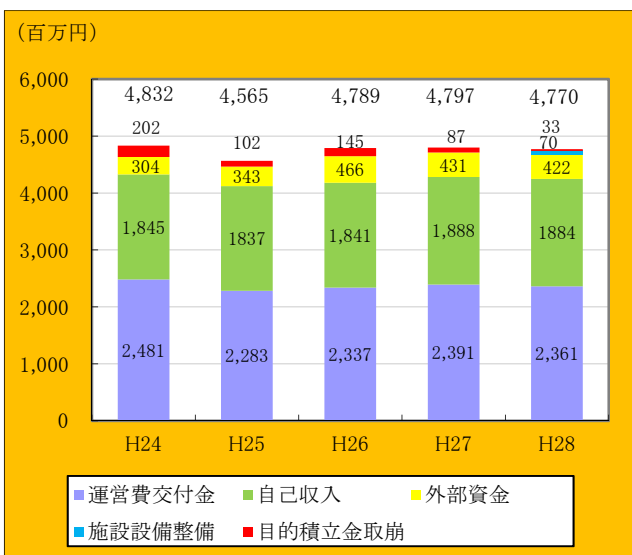


図書館入館者数は、漸減状態にあったが、平成28年度は増加した。学生1人あたりの貸出冊数は前年度より減少している。

## 6. 財政の状況

- 収入額から見る年間事業費は、ほぼ前年度並み
- 外部資金の獲得は減少

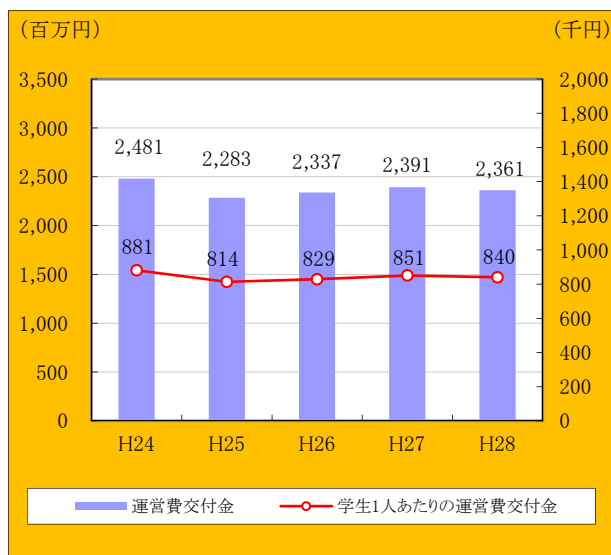
### 6-1 収入額から見る年間事業費の状況



※ 各年度決算報告書

収入額からみる本学の年間事業費は、およそ47億円程度である。昨年度より約2,700万円減少した。入学科や授業料等の自己収入は、ほぼ横ばいであった。

### 6-2 運営費交付金の状況

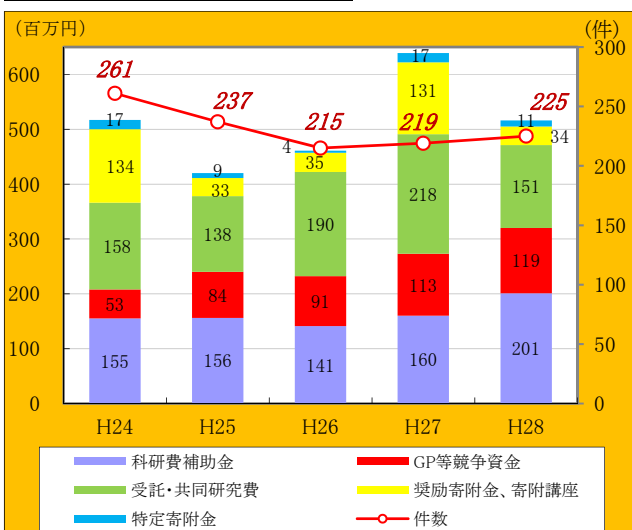


※ 各年度決算報告書

※ 学生数は、学校基本調査（毎年5月1日現在）による。

運営費交付金および学生1人あたりの運営費交付金は昨年より減少した。

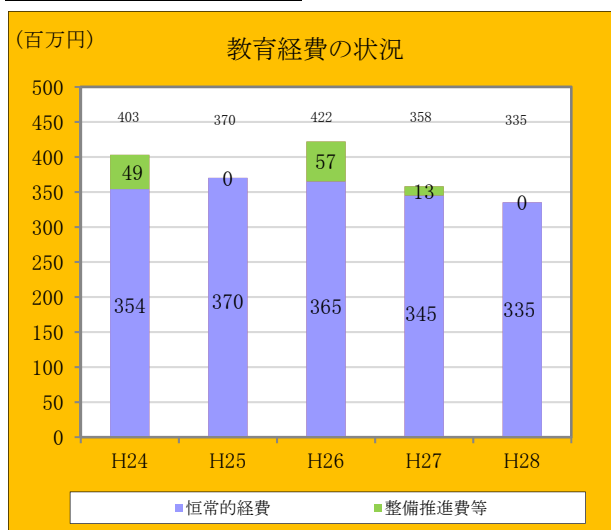
### 6-3 外部資金の獲得状況



※ 科研費補助金の配属経費等を含む獲得状況

科研費補助金の総額については繰越を含むため、平成26年度より増加している。GP等競争資金についても増加している。

### 6-4 教育経費の状況



※ 各年度決算

恒常的経費（教務費、厚生補導費、就職対策費、学部等教育推進費など）は、平成25年度以降減少している。